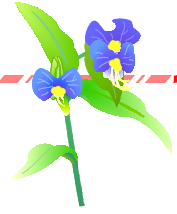


「一冊のノート」

6月17日



～家族について考えてみよう～

【教材あらすじ】

物忘れが激しくなった祖母に強い不満を抱く「僕」。ある日、祖母が誤って片づけてしまった僕の物を探すため引き出しを開けると、中から手あかに汚れた1冊のノートが出てきた。それは、祖母が少し震えた筆致でつづった日記だった。僕ら孫や家族への愛情と老いていく自分への不安が、月日を重ねて乱れていく文字で書かれていた。

○授業を振り返り、家族について考えてみよう。

- ・私も似たようなことをしている。だが、家族というのは一番一緒にいて安心する人たちなので、気持ちを考えるが大事だと思った。
- ・「僕」と私のおばあちゃんへの接し方が似ていて、もしかすると私のおばあちゃんも辛い思いをしているんじゃないかと思うと、今までの態度を反省して優しく接したいです。
- ・時には怒られ、時には温かく見守られ、時には心配され・・・こういう何気ない日常が幸せなんだと思うと、家族に何か起きたときは絶対に自分から行動を起こさないといけないと思った。
- ・よく考えると、例えばお母さんだったら、ご飯をつくってくれたり、洗濯物の取り込みなどしてくれていたり、お父さんは請求書を作ったりとかで、仕事から帰っても仕事をされていて、家族って大切だと思いました。
- ・家族一人一人に役割があることが分かった。おばあちゃんは記憶が思い出せなくなっても、家族のために1秒1秒を大切に一生懸命生きていることが分かった。僕も家族に対してできることをしたいし、楽しく生活したいと思った。
- ・家族にイライラしたときは、思いをぶつけるのではなく、どうしてそうなったのかをよく考えて行動し、助け合って幸せな生活をしていきたいです。
- ・人間は一人では生きていけないので、家族は大切だと改めて思いました。だれにでも老いは来るものなので、自分の祖母がそうなったら温かく見守りたいなと思いました。
- ・時には家族にいら立ち感じたり、ストレスが溜まってしまいましたが、家族（親）がいるからこそ、食べたり寝たり、褒められたりします。そうされているみんなはとても幸せだと思います。だから、親にはありがたみをもったほうがいいと思う。
- ・僕も最近おばあちゃんの言動にイライラすることが多くなってきたけど、畑仕事などを手伝っていたら、とてもきつくて毎日大変なことをしてくれているんだと申し訳なくなりました。だから、自分が接し方を考えないといけないなと思いました。
- ・家族の人がいろいろ家事をしてくれていることに対して感謝の気持ちが生じた。おばあちゃんの変な服着とったら、私だったら、恥ずかしいというより、面白さが勝つと思

った。少しでも家族へ感謝しようと思った。

・反抗するときもあるけど、いつも迷惑をかけているので手伝いなどをしてあげたいと思いました。じーちゃんとは一緒に住んでいないけど、休みの日には遊びに行ってお話をしたり、農業を手伝ったりしたいです。

・家族には感謝しないといけないなと思いました。日頃お世話になっている家族は「当たり前」とは思わずに、毎日過ごしていきたいと思いました。